

県北 どらくろあ

第9号 2016年12月1日（毎月1日発行）

県北群星伝⑥ 里山の映像詩人

ふくみつのぶもと
福光延元

67歳（庄原市三日市町）

中国地方のお祭りや民族芸能を撮影、編集した作品をDVDビデオにしている人がいる。「西城中野・八幡神社の秋祭り」、「みらさか沖江田楽」、「津和野の鷺舞神事」、「鹿子原の虫送り踊り」、「吉田子供歌舞伎」等々。他にも芸備線や木次線、因美線といったJRのローカル線の「小さな旅」シリーズがある。

その映像はアングルが工夫され、ナレーションやテロップによる解説が入ってわかりやすい。テレビ局のドキュメントで写真を撮って、庄原市内の

シナリオ番組を見ているような完成度だ。制作は「がらくた銀塩写真館」、当然、複数のスタッフが参加しているのだろうと思っただが、福光延元さん一人で作っていると聞いて驚いた。

福光さんが映像に興味を持ったのは幼稚園のとき。最初は写真だった。自宅に下宿していた親戚の高校生が、二眼レフのカメラを持っていて、福光さんにも撮らせてくれた。小学生の頃から自分のカメラで写真を撮って、庄原市内の



カメラ屋に通っていた。

転機は映画だった。当時は市内にまだ、「伍楽荘」と「ラッキー」という映画館があった。黒澤明や今村昌平、篠田正弘といった映画監督の重厚な人間ドラマに魅了された。できれば自分も、作る側に立ちたい。

「キネマ旬報」という映画専門誌がある。映画のシナリオを載せていた。これだと思った。シナリオなら、自分にも書けるのではないか。いや、書いてみたい。

シナリオが勉強できる大学を調べたが、当時は日本大学芸術学部の映画学科だけ。しかし、授業料が高くて断念。そして、シナリオ作家協会が運営している「シナリオ研究所」を見つけた。プロのシナリオ作家の養成機関である。鎌田敏夫、ジェームス三木、中島丈博などの日本を代表する脚本家を輩出している。

昭和四十三年、研究生となった福光さんは、東京・赤坂にあるシナリオ会館に二年間、通った。山田洋次、篠田正弘、和田勉といった現役の監督や脚本家が講師として登壇していた。福光さんの同期には、「前

略おふくろ様」や「大都会」シリーズのシナリオで知られる金子成人がいる。

しかし、映画は斜陽産業になっていった。「シナリオでは食えない」時代になっていった。福光さんも、人形劇団や児童劇団など、自身の居場所を模索する。小所帯なので、シナリオを含めてなんでもやった。そのときの題材探しで出会ったのが、地方のお祭りや民族芸能だった。それが、現在の活動につながっている。

映画への夢を諦めていた福光さんだが、知人の喫茶店で観た8ミリ映画に衝撃を受ける。自分のヒッチハイクの様子を撮影したロードムービーだった。これだったら、自分一人でも映画が作れるのではないか。さっそく、8ミリカメラを購入した。

福光さんは昭和五十三年に庄原に帰郷、同五十四年に8ミリ映画の講習会に参加する。そのときのメンバーが「庄原8ミリ映画クラブ」を結成。同五十七年には、山之内町の日吉神社の「山王祭」を制作。勇壮な早駆け馬神事が有名な祭礼で、今はDVDで観ることがができる。

その後、パソコンが普及、映像はデジタル化された。映像の編集ソフトも進化して、個人の資金でも高度な編集作業が可能になった。福光さんはそうした技術を独学、また、庄原ふれあいセンターを拠点に活動している。「広島ビデオコミュニティプロジェクト」に加入して、ビデオ制作のノウハウを研鑽している。

撮影は単独行が基本だが、自分の都合が悪い時は息子さんに撮影を依頼することもあるという。完成したDVDビデオは、友人や知人の興味ある人に配布しているだけ。もったいないような気もするが、公開するには肖像権の問題等々、何かと制約が多いのだそうだ。

自分の好きなように、自由に撮影したい。そう言って福光さんは、写真に熱中していた頃の少年の顔で笑った。制作の「がらくた銀塩写真館」は、ホームページで自分の写真を紹介していた時のサイト名。当面の目標は、庄原市内のお祭りを順次撮影、記録することだという。

自費出版された書籍でも、高額な値段で売買されることがある。郷土史関係の労作が人気である。読み物としての魅力はもちろん、貴重な資料としての役割を担っている。福光さんのビデオ作品も同じだと思っただ。映画人の矜持がこもっている。時が経つほどに、価値が増してくる。

図書館員ノート④

「奮闘の日々」

四月に、三次市立図書館から布野図書館に異動になった。中村憲吉邸の横に、二〇一二年に新築された図書館だ。初めて来られた方に「木の香りがいいですね。」とよく言われる。

着任してまず、書架を見る。古い本や色褪せた本が多く、背表紙の文字も消えてしまっている。本は



図書館の命。早速、背のタイトルは、パソコンで打ち直してみた。しかし、子供達は白黒で直したものは手に取らない(中身は同じなのに)。そこで、市内図書館に同じ本があれば、カラーコピーで修正する。ページが外れた本は一度解体して縫い直す。ページを束にして鋸で溝をつけ、糊を入れる場合もある。新しく入れた漫画本は、ドリルで

穴を開け、縫っておく。パツクリ防止策だ。答えは数年後に出るはずだ。「買いなおせばいい」と思うであろうが、限られた予算の中で、そうそう簡単に捨てるわけにはいかない。絶版で、もう手に入らない本もあるのだ。

先日、布野小学校の二年生が見学にきた。修理やブックコートをかける様子を見てもらった。初めて見たのか、興味深そうに目を輝かせていた。ドリルと鋸はインパクトが強かったようだ。

分館は司書が一人勤務。修理だ

けでなく、広報・選書・発注・貸出・レファレンス・展示・配達……。全てが担当だ。時に思うように回らなくなり、ジレンマに陥ることもある。また、図書館の資料だけでは利用者の質問に答えきれず、ネットで調べる結果になることもストレスを感じる。古いかもしれないが、図書館での質問は本で調べ答えるべきであると思うからだ。

ある利用者に「一国一城の主だね」と言われた。その時は「そんないいものではない！責任をみな背負って」と思ったが、最近、「頑張りよってじゃねえ。」と声をかけてもらえるようになった。タオルを首に巻いて、汗をかきつつ作業をする姿を見てもらえていたのかと思うと励まされる。気持ちの持ちようかもしれない。あの二年生達のように明るく受け止めてみるか。布野の地に親しまれる城を目指し、資料を整え、日々築城に努めようと思っている。

『西遊記』

仏教世界への旅だった

前回に『水滸伝』を紹介したので、今回は『西遊記』にも触れたいくなりました。

『西遊記』はだれでも知っている中国のお話です。小説だけではなく映画、TV、マンガでもよく登場します。目に触れるとつい見てしまいます。今でも安心して楽しめます。

この度、「世界少年少女文学全集」(創元社) シリーズで『西遊記』を再読して「おやつ」と思いました。少年の時に楽しんだ感じと少し違うのです。もともとの『西遊記』は長い長いお話です。どのエピソードを取り出すかで印象は違います。それにしても、物語を一気に読むと孫悟空が、次第に変わっていくのが分かります。前半は、乱暴者でめっぼう強かったのですが、後半には怪力には限界をみせ、知恵を使うようになります。そればかりか、観音様やお釈迦さんに助力を頼むのです。

このお話は、実在の三蔵法師(玄奘)という偉いお坊さんが西の天竺(インド)にお経を取りに旅をし、孫悟空や豚の猪八戒や砂の原の魔者

だった沙悟浄がお供をする物語です。もちろん孫悟空たちは架空の登場人物です。難所の山を越えようとする

これら魔者との戦いの奇想天外さが見せ場です。例えば、投げ輪を得意とする一本角(つの)の魔者は、火攻めにしようにも投げ輪で火を巻き上げるのです。悟空は、神様に頼んで水攻めにしようします。神様には大きな黄河の水も、「どんぶり鉢

また読んでみたい本⑨ ——少年少女たちへ 音谷 健郎



【西遊記 表紙絵】

世界の古典文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の少年少女たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介していきます。

第9回目は『西遊記』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

度に次々と魔者が現れ、行く手をはばむのです。よく読むと魔者は亀、ネズミ、蛇、ムカデや熊、鹿、ゾウ、ワシなどの化身で、実は天上界で罰を受けたものたちです。改心せずに人をいじめたり、食ったりと悪を繰り返しているのです。

「一杯ぐらいしかありません」から、「半分だけすくって持って行きました」といった調子です。奇妙な化け者もいます。月の世界のお宮で、白い葉を白でついていたウサギです。月の世界でいじめられて、下の世界にきて魔者になってい

るのです。あれっ、月の中のウサギなら、日本からでも見えるではありませんか。

西に近づくにつれ、出現する魔者に対し悟空の怪力は押し戻され、しばしば天上界に行つて観音様だけでなく、弥勒さん、南極星、女神の西王母、仙人のなかで一番えらい老子さまや最後にはお釈迦様に助力を乞います。みんな快く引き受けます。

一行は天竺に着きますが、まだそこでは終わりません。「東の国では、ものがたくさんあるのに、やたらにほしがったり、お互いにだましたり、殺したりして、つまらないことです。そのような苦しみから救うことができる書物がお経です」とお釈迦さんが話します。一行は唐の国の都・長安に無事、お経を持ち帰ります。

最後は孫悟空が「そつと頭に手をやってみますと、あのだが(頭の金の輪)は、いつのまにかなくなっていました」と物語は終わります。孫悟空はお釈迦の願う立派な猿になったのです。そう、この物語には仏教説話が隠されているのです。

正直にいうと、私にとって前半の方が圧倒的に面白く、後半の賢くなった孫悟空には物足りませんでした。悪い読者でしょうか。

居間に足を踏み入れたときに、体が硬直した。炬燵入って、右手で頬杖をついている男の姿が目に入った。古びた藍色のどてらを着込んでいる。

「やあ、お帰り。寒いじゃろ、炬燵に入りんさい」

甲高い声でそういわれて、崇（たかし）はおずおずと腰を下ろして、遠慮がちに炬燵に足を入れた。

（どこから入ったんだろう……）

玄関には鍵がかかっていた。三和土にも履物はなかったはずだ。

「近所に住んでいるチンタマです」

崇の不審を察知したのか、男が名乗った。

（チンタマ……、どんな字を書くんだ？ ひよつとして、外国の人？）

「東大に通っている崇くんじゃろ？ 今日、帰って来ると聞いたんで、待つとつたんじゃ」

名前を呼ばれても、警戒心は薄れない。ここに来ることは、両親にしか話していないのだ。そんな連絡を取り合うほどに、この男は両親と親しいのだろうか。

「まあ、一杯やりんさい。長旅で疲れたじゃろ」

半分ほど残った一升瓶の酒を、湯呑になみなみとついであげた。

（これは……）

一口含んで、その安っぽい甘さに記憶がよみがえった。まだ祖父が生きていた一昨年冬の冬のことだ。寒くて寝付けず、台所にあった一升瓶の酒をコップについて、寝酒に飲んだ。まずくて半分しか飲めなかった。下戸の祖父が料理に使っている二級酒だということが、あとでわかった。

そういえば、男にしては甲高い声をしている。年齢も意外と若いのかもしれない。どてらの中身を透視するように見入った。

「どしたん？」

声をかけられて動揺した。湯呑の酒を一気に飲み干した。

「強いんじゃね。どんどんやりんさい」
また湯呑に酒がつがれた。

「救世菩薩」

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子⑨

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

（この家の酒を勝手に飲んでやがる）

よく見ると、男が着ているどてらは、祖父が愛用していたものだった。詰問しようとして、男の顔をまじまじと見た。

（うん？）

髭のないつるんとした顔だった。短髪だが、パーマがかかっている。

（おじさんではなく、おばさん？）

るんですよ。そう、日本一です。なんだと思いますか？ ボディビルです。運動神経に関係なく誰でもできるし、栄養学をきちんと勉強して食事やプロテインを摂取すれば、ムキムキの体になれます。飽きもせず、まずいものを食べて、単調なウエイトトレーニングを繰り返す。東大生にぴったりのスポーツです」

何かの雑誌で読んだことを、自分の発見のように吹聴している。

「そりゃあ、勉強はできましたよ。中学までは、いつも学年でトップです。でも、高校は違います。進学校で、そんなやつばかりが集まって来ますからね。東大に入ったら、おれは凡人なんだと思い知らされました。上には上がいる」

「就職は決まっています。ええ、大手企業です。でも、正直、不安なんです。社会には、ルールがあるようでないですからね。人付き合いも、どちらかというと苦手です」

素直に弱音を吐露できた。「自信があることが一つ、あるんですよ。おれ、バイトの家庭教師の評判がめちゃめちゃいいんです。おれが教えた子はみんな、成績がどんどん上がります。えっ、東大生なんだから当たり前ですか？ でも、おれ



よりも成績のいいやつが、家庭教師を首になったりしてますからね。たぶん、頭が良すぎて、こんな簡単な問題がどうしてできないんだと見下しちゃうんだと思います。子供は敏感だから、そんな気持ち伝わっちゃおう。おれは違います。所詮、凡人ですから」

声を出して笑った。
「実は、教員免許を取ってるんです。先生になれたらいいなとぼんやり思ってた。いや、両親にはいつてないです。とくに親父にそんなことをいったら殺されますよ。じいちゃん

のことを軽蔑してましたからね」

祖父は小学校の先生だった。祖父の教え子の話を聞くのが好きだった。とくに、祖父が日本海の離島に赴任していたときの話がお気に入り。で、何度もせがんで話してもらった。全校生徒はわずか七人。その一人ひとりが個性豊かで、楽しいエピソードを持っていた。幼い崇にとっては、その七人はヒーローだった。

祖父にだけは、先生になりたいという気持ちを打ち明けたことがある。何も言わずに笑っているだけだった。たぶん、父親のことを気遣っていたのだと思う。でも、とても嬉しそうな顔をしていた。

「のみんなさ」

湯呑に酒が注がれた。ぐびりと飲んで、うまい酒だと思った……。

目が覚めると、炬燵に入って寝ている自分に気づいた。傍らに、空になった一升瓶が転がっている。二日酔いで頭が重い。あのおじさんのようなお婆さんの姿はなかった。夢でも見ていたのだろうか。しかし、炬燵の上には湯呑が二つ、置かれていた。

顔を洗って身支度を整え、家を出た。今回の旅行は、祖父の墓参が目

的だった。就職のことを報告して、教師にならなかったことを謝罪するつもりだった。それで、気持ちを整理するつもりだった。

しかし、今は気持ちが変わっていた。自分の想いを父親にぶつけてみようと思う。反対されてもなお、自分が教師になりたいと思うかどうかはわからない。これは、計算しても答えが出せない問題だ。やってみるしかない。そうしないと後悔する。(あのおじさん、いや、お婆ちゃんか、どこかで会っているような気がするんだけどな)

小さなお堂が見えてきた。観音堂である。崇は一礼して、その前を通り過ぎた。

※〔船所の観音堂〕(三次市西酒屋町船所) お堂は近年再建されたもの。古くは谷を入った田んぼの傍にあって、たいがいが、堂がなくなり近くの浄泉寺に何十年か預けてあったものを平成十七年に現在地に建立。(三次のお堂群のウエブマップ参照)

ちよつとどぼけた雰囲気。如意輪観音像が安置されている。如意輪観音の梵名はチンターマニチャクラ、菩薩の一尊で、救済菩薩とも呼ばれる。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※平成29年より毎週月、火曜日が定休日となります。

● 庄原市中本町2-1-10 ● 定休日：毎週火曜日 / 第1・3月曜日
● 営業時間：9:30~19:00 ● TEL:090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

<広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円>



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「つきはぎ仏教入門」

吳知英 著 筑摩書房

仏教って、どうしてこんなにいっぱい宗派があるの？ お寺によって説話や行事が違うのは何故？ そんな疑問に、「くれともふさ」は明確に答えてくれる。経文は釈迦の教えを弟子が書き記したもので、後世に都合のいいように「創作」されたものがほとんど。釈迦の教えは仏道修行により「覚り」を得ることで、その本質は小乗仏教にある。衆生救済の阿弥陀信仰はキリスト教に似ている。禅宗の「無」は中国の荘子思想を取り込んだもの。



目から鱗の論説が小気味よく展開される。矛盾や問題点だけではなく、仏教の必要性も説いている。仏教国に生まれた者として、読んでおきたい本である。

「無人島に生きる十六人」

須川邦彦 著 新潮文庫

「十五少年漂流記」は、ジュール・ヴェルヌの冒険児童小説だが、こちらの方は実話である。明治31年、漁業調査に出航した帆船・龍睡丸は、太平洋上で遭難して無人島に流れ着く。乗組員16名による、標高わずか4メートルの小さな珊瑚の島での過酷なサバイバル生活が始まった。

雨水や井戸を掘っての飲み水の確保、帆布をほぐした糸で網を作り漁をする、食料にするために海亀の放牧場を作る、塩やインクを作る等々、知恵を出し合い、規律のある生活を維持して、約一年後に乗組員全員で生還を果たす。実話だけあって、それぞれのエピソードが迫力満点。不撓不屈の日本男児の物語。



「ヒカルの碁」

原作・ほったゆみ 漫画・小畑健 集英社

どら書房の漫画ルームで「ヒカルの碁」を購入、一冊だけ読んでみようと思えば、もう止まらない。結局、23冊すべてを一気に読了してしまった。原作者のストーリーテリングの力と漫画家の描くキャラクターの魅力が見事に合致、漫画史に残る名作が誕生した。

棋聖と呼ばれ、歴史上最強の棋士ともいわれる本因坊秀策。そんな江戸時代の伝説の棋士が現代に蘇って、世界のトップ棋士と対戦したら……。ワクワクする設定ではないか。その秀策の魂が宿ったのは、囲碁は素人の小学生「ヒカル」。ヒカルが囲碁の魅力に開眼して成長する物語でもある。囲碁が出来ない人でも十分に堪能できます。



どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくる俳壇

同窓会八十路十人日短か

近藤 昌平

眼閉じ鼻のごと眠りたし

原 博己

一湾を冬日平らに照らしけり

片岡 正人

農夫立ちつるべおとしの陽を惜しむ

隆 愚

爛酒をのみて血潮の熱さかな

赤川 冬人

※投句を歓迎します。

投稿&寄稿

「冬の牧」 富久光

(1)

冬の牧場は物いわぬ世界です
そして何もない純白の世界です
柵道も人の行き来がなくなりました
獣の足跡ひとつない牧場を
黒つぐみが一羽
羽音をひそめ足ばやに去っていきました

(2)

霜柱の崩れる音は聞こえませんが
枯草を吹き抜ける風の音も聞こえませんが
落葉しきったアカシアの小枝も
宙に張りついたらままです
灰色雲は無表情です
小鳥の動く気配もありません
牧の門は固く閉ざされたままです
それでいて何もかも
音をたてて壊れてしまいたいそうなのです

今月のどらさん



この絵をブックカバーにしています。

絵・風太

どら書房委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中!



前号までの「永江の里」に続いて、「庄原」の地名の由来についても述べてみましょう。いろいろと説がありますが、昭和二十四年六月発行の「永江の庄から庄原町へ」と、一九九一年八月発行の「解説庄原雑録」を参考に解説します。

(イ) 陰徳太平記に天文年中に庄原李之進がこの地に住んでいたとありますが、庄原李之進がこの地に来て住んで、庄原となったのか、庄原に住んだ故に、この地の地名をとって自分の姓としたのかは、はっきりとしません。古来豪族が、その地名を自分の姓に名乗るのは非常に例が多いところであり、又、幕末三原藩の家老に庄原三左衛門と名乗る者があつたという事などから考え、確実な文献が無い限りは、庄原李之進を

もって庄原の起因とする事は出来ません。

(ロ) 古文書に、庄原に月三度塩市を立てたといっているのを引証して、塩原と称していたのが訛って、庄原になったであろうという説があります。

ところが、現在の三次市には塩町があり、上州には塩原もあり、やは

原と称せられるのは、広い土地の意味であつて、宮内、新庄、本町、川手の一区域に荘園の事務所、いわゆる庄屋があつた原なるが故に、庄原と名付けたと考えられます。

長者の屋敷跡を長者原と称するのと同じであります。

日本全国の地名で庄または荘のつく地名が非常に多くあります。例をあげますと、「備中の庄」、「越中、越

や訛音によつて生じたものというよりは、荘園の名残を意味するものであると考える事が妥当でありましょう。

古記録によれば、慶長六年、寛永十五年の検地書類には庄原村という名は無く、上野池の碑文に安永九年に三上郡永江庄原邑、宮内八幡神社の鳥居に享保五年永江庄宮内村とあるのを見れば、徳川時代の中期に庄原村と称せられる様になり、その後も永江庄と並称されていたのであると思われまふ。

(次号では、全体の参考年表を記しておきます)

庄原名称探訪

「庄原」の地名の由来について

寺岡隆行

り古来のままで残っています。

庄原だけが塩原が転訛したという説は非常にあいまいなものとなってきます。

(ハ) 中世期の荘園の名残によるものであるかと考えるのが妥当ではないでしょうか。荘園の荘は庄を用いる場合もあります。庄司、庄屋という役名が残っています。

後の庄川、「飛驒の庄川」、「越後の庄瀬」、「伊勢の庄田」、「淡路の庄田」、

「豊後、筑前、尾張、遠江、武蔵、羽前の庄内」、「日向の庄内」、「出雲、備後の庄原」、「上総の庄吉」などがあります。

その何れの地名を調べてみても、中世の荘園の名残を留めています。

この様に、幾多の地名の類例をもつてしても、庄原という地名が人の姓

告知

どら書房の定休日が来年から変わります

月曜日、火曜日の週2日。

月曜日は第1と第3が定休日でしたが、完全週休2日に移行します。

在庫品の整理や店舗の充実には時間が必要なのだと痛感しています。

ご理解をお願いします。



《情報＆原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室＆講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- どらくろあで地元の記事を書いてみませんか?

※応募先はどら書房・赤川まで。掲載は無料です。

『庄原メイプルラジオ』

毎週日曜日
13時～放送中!!

庄原で過ごすパーソナリティ達の
何気ない日常の話と地域の情報や
ゲストを招いて放送する地域密着
エンタメ放送!!

YouTube

和家チャンネル:



陶芸教室

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

自作のお茶碗で
お茶を飲んで
みませんか?

- 金・土・日曜日開催
- 場所: 県立広島大学前簡易郵便局に併設
- 費用: 一回500円+材料費
- 連絡先: 0824(74)0686 洲沢(スザワ)

— 参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

みよし運動公園の屋内&屋外コートで、硬式テニスの例会を行っています。

- ・ 火曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 水曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 土曜日 (12:00 ~ 14:00)

入会金、会費等は必要なく、コート利用料だけを当日の参加者で分割負担。現在、50人をこえる会員がいて、ご自分のペースでエンジョイされています。例会だけではなく定期的にMTECの大会や他の地域のテニスクラブとの交流会を開催。興味のある方は、一度、例会にご参加ください。見学も歓迎します。

連絡先: 中川 (☎080-5610-2376)

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、
ダウンロードしてお楽しみいただけます。

<http://shobara.wix.com/dorakuroa>



発行: どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@sannet.ne.jp
年間購読料: 2,000円(郵送料込)

誌面デザイン: ROUTE183
協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇先月号の記事で間違いがありました。「県北群星伝⑤」での荒瀬秀賢さんの母校は「日本医科大学」ではなく「東京医科大学」。「庄原名称探訪」での「芸藩通誌」は「芸藩通志」。

先行配布した一部の冊子に、ミスがそのまま掲載されています。お詫びするとともに、訂正させていただきます。

◇二カ月前から飼い始めた雌猫の「ママ」、ようやく体に触らせてくれるようになりました。しかし、爪とぎで家具は傷だらけ、床はトイレの砂が飛び散って、弄んだティッシュの残骸が散乱。夜中に徘徊して大きな音を立てるので寝不足気味。まるでわたしの方が飼いならされているみたいです(苦笑)。

第191回

しょうばら 九日市

平成28年

12月9日 (金)

9:00~13:00

トピックス

★ 市民ギャラリー「アート多愛夢」では
わら細工 作品展
時 12月8日(木)~10(土) 10時~16時

★風龍……九日市スペシャル! 餃子200円!

★どら書房…営業時間 9:30~19:00
毎週火曜日と第1・3月曜日は休み

広島みどり信用金庫	マルエイ	まち屋café あさ井	シオ
楽笑座P			

		楽笑座 まかない食堂 11:00~12:30 うた声喫茶 13:30~15:00
⑪	元庄原寿司	⑪
⑩	田邊酒店	⑩
⑨	元かいち	⑨
ギャラリー アート多愛夢		

⑧	元タケムラ	⑧
⑦	須澤 宅	⑦
⑥	三上 宅	⑥
⑤	天野 宅	⑤
④	内海 宅	④
③	横山 宅	③
②	宮田 宅	②
キッチン北川		

①	九日市 カフェ	①
---	------------	---

当日の天候により、断り無く
出店者・出店場所は変更する場合があります。

出店申込みは、
【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース 1,000円~
九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座 内
TEL / FAX (0824) 72-8285

楽笑座P	山下表具店	よりんさい コーナー ⑫ どら書房 古本	広島銀行	敬 ち や ん 時 計 店	備後庄原 ↑
------	-------	-------------------------------	------	---------------------------------	-----------

リトルマーメイド	きくや ランチ	〒
⑬ 西上	⑬ 吉備路花田FF くんえん工房 香豚 ハナピラタケ広島 山本水産	
吉岡中央堂		
⑭ タナベ	⑭ 阿波屋刃物	
藤田金物店		

⑮ まちなか 広場	⑮ 砂田海産 田崎屋 佐藤園芸 宮川屋 仲田屋
⑯ 元イタクラ	⑯ お福
本郷薬局	横山旅館 SS
セラ百貨店	
牧原医院	
庄原警察署	
Let's	風龍

↓
中国
自動車道
庄原I.C

くんちいちホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>
直前情報見てね!

駐車場

P

	庄原市役所
--	-------